

2 ICTを利用した未来の移動サービス「MaaS」

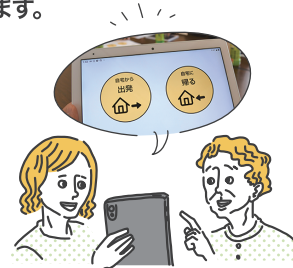


「MaaS」(「ICT」を活用して複数の公共交通をシームレスにつなぐ)を活用し、マイカーを手放した高齢者や交通・物流事業者の不足など、地方が抱える交通課題を解決するため新しい移動サービスの構築を推進しています。上士幌町では、これまで貨客混載や雪道走行など、様々な条件下で自動運転バスの実証実験を重ねてきました。2022年12月から、町内の市街地を周遊する定期運行を開始し、自動運転バスの実用化に向け一歩前進しました。



また、高齢者向けの農村路線の福祉バスをデマンド化(定期運行ではなく、予約に応じて時刻・経路を決めて運行する形態)とすることで、運行の効率化を図るだけでなく、高齢者がタブレット端末から気軽にバス予約をするシステムを導入し、ICTに触れる事で情報格差を解消する1歩にもなりました。将来的には、ICTによってバスの空き時間を「見える化」し、交通・物流の最適化も目指しています。

そのほか、観光客や来訪者へも、カーシェアリングサービスやレンタサイクルなど、環境にやさしい移動手段を組み合わせたサービスを提供しています。



3 ドローンを活用した山岳遭難救助や配送実証



上士幌町内の町有林やナイタイ高原などの実際の山を舞台として、山岳遭難者の実践的な救助活動をテーマに、ロボットやドローンによる山岳遭難救助コンテンツや夜間の実証実験を行ってきました。これを踏まえ、2021年4月に、ともに取組を進めてきた一般社団法人と連携協定を締結し、5月よりドローンによる夜間捜索支援サービス「NIGHT HAWKS」のサービス提供を開始しています。上士幌町だけでなく、全国へのサービス展開を進めていきます。



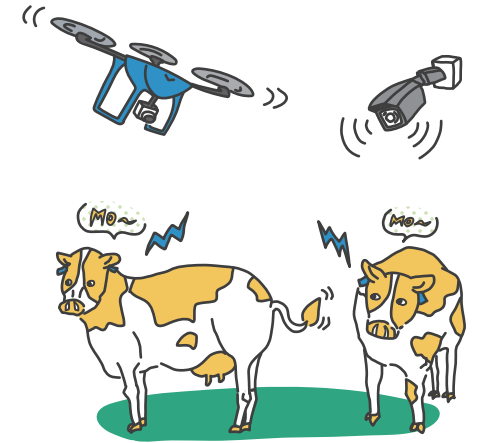
また、2021年8月には関係企業と包括連携協定を締結し、カーボンニュートラルと利便性を両立した持続可能な物流インフラの整備と環境づくりに向けて取組を開始しています。

運転免許を返納した農村部に住む交通・買物弱者の課題解決として、ドローンを活用した個人宅への買物代行配送や、酪農家が検査機関に送る牛の検体を、陸送とドローンの空送をミックスさせて配送することで効率化を目指しています。

2022年5月には「全国新スマート物流推進協議会」を設立し、このような先進的な取組を進める各自治体や関係企業が構成員となり、全国における新スマート物流の早期の社会実装を目指しています。



4 スマート農業の推進



現在、上士幌町の畜産農家では、大規模化を進める中で搾乳ロボットや畜産IoT機器の導入が進み、クラウドを介した人工知能の活用など、先端技術を積極的に取り入れています。

また、畑作農家では、GPSガイダンスシステムを導入し、広大な農地における農作業の省力化や高精度化を進めています。

町では、ロボット、IoT、5Gなどの利活用によるスマート農業の推進に向け、2019年には4Kカメラと5G通信環境による牛の個体確認の効率化を図る実証試験を、2020年には効率的なエネルギー利用と快適な牛舎を実現するための畜産版エネルギーマネジメントシステム「ふぁーむログ」の開発や、農業

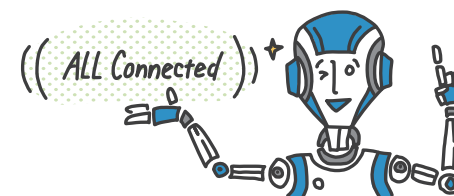
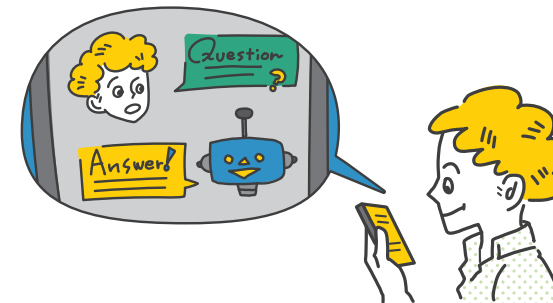
気象観測機器の活用による気象データや病害虫予察情報、2021年にはドローンによる防除作業のデモや、リモートセンシング(離れた位置から対象物を観測・測定する技術)の活用など、さまざまな取組が進んでいます。

5 AIを活用した「かみしほろチャットボット」

2021年3月より、行政サービスの手続きや町内施設の休館情報等、スマートフォンなどから24時間365日お問い合わせができる「かみしほろチャットボット」のサービスを開始しています。

夜間や休日でも、皆様からいただいた質問に、町職員に代わってチャットボットが回答します。「日中は仕事で電話できない」「電話するのが煩わしい」「役場のどの部署に聞けばいいかわからない」などの問題を解消し、今すぐ知りたい情報を簡単に取得することが可能です。

2020年に整備を完了した、役場から町民への一斉情報配信システム「@infoCanal」とあわせて双方向のコミュニケーションを確立したことにより、町民サービスの向上とともに、町民のデジタルコミュニケーションの浸透とITリテラシーの向上も期待されます。



未来に向けたスマートタウンの実現はこれまでご紹介したすべての柱を繋ぐ大切な仕組みでもあるんです!